

# むうみんさくら病児保育利用可能な症状の目安

## (1) 熱の場合(一般的な風邪等)

朝から39℃以上、水分がとれずぐったりしている場合は利用できません。  
 ※朝、解熱剤内服後に病児保育を利用し、6～8時間空けて解熱剤を使用することも可能です。  
 応相談。(例:上気道炎、咽頭炎、気管支炎、中耳炎、クループ症候群など)

## (2) 嘔吐・下痢・胃腸障害の場合

激しい腹痛、頻繁におこる下痢、嘔吐の場合は利用できません。

## (3) 外傷の場合

骨折、縫うようなケガの場合でも、医師連絡票があれば利用できます。

## (5) 感染症の場合

※解熱の目安は37.4℃以下

病名		病児保育が可能な目安
第二種	インフルエンザ	解熱後24時間過ぎてから利用可能
	百日咳	×
	麻疹(はしか)	×
	流行性耳下腺(おたふく)	×
	風疹	×
	水疱(みずぼうそう)	×
	咽頭結膜熱(プール熱)(アデノ)	解熱した翌日より利用可能 目の症状が軽減(充血・腫れ・眼脂がない)していれば利用可能
	結核	×
第三種	腸管出血性大腸菌感染症(O157)	×
	伝染性紅斑(りんご病)	熱が38度以上でなければ利用可能
	流行性角結膜炎(はやり目)(アデノ)	解熱しており、目の症状が軽減(充血・腫れ・眼脂がない)していれば利用可能
	急性出血性結膜炎	眼脂・流涙がほぼ消失していれば利用可能
	溶連菌感染症	抗菌薬投薬後より利用可能
	手足口病	38.9℃以下で水分がとれる状態であれば利用可能
	ヘルパンギーナ	38.9℃以下で水分がとれる状態であれば利用可能
	ロタウイルス感染症	×
	ノロウイルス感染症	×
	マイコプラズマ感染症	解熱後24時間過ぎてから利用可能
	RSウイルス感染症	解熱後24時間過ぎてから利用可能
	ヒトメタニューモウイルス感染症	解熱後24時間過ぎてから利用可能
	突発性発疹	38.9℃以下で水分がとれる状態であれば利用可能
	急性胃腸炎・細菌性胃腸炎	立て続けに嘔吐、下痢がない場合は利用可能(水分補給をしてすぐに嘔吐してしまう場合は利用不可)
単純ヘルペス感染症	38.9℃以下で水分がとれる状態であれば利用可能	

## (6) 病後児保育ご利用の場合

利用不可の上記×の感染症のうち、通常保育の登園許可が医師からでた上で、保護者が集団生活が困難とした場合は病後児保育として利用は可能とります。

※上記の表はあくまでも目安です。主治医の先生の指示に従って、利用をお願いします。